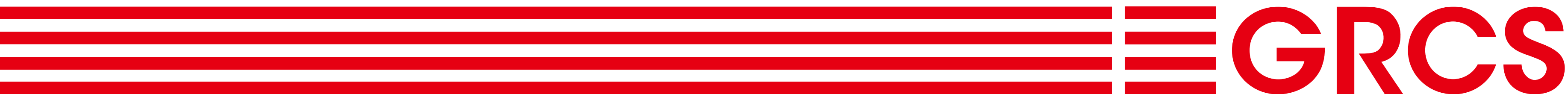


2026年11月期 第3四半期

決算説明資料

株式会社GRCS 証券コード：9250

2026年10月15日



免責事項

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。

これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、必ずしも既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証しておりません。

アジェンダ

1. 2026年11月期 第3四半期 決算概要
2. 事業別進捗状況
3. 通期業績予想の修正
4. 2030年に向けた成長戦略
5. 会社概要

1. 2026年11月期 第3 四半期 決算概要

2026年11月期
第3四半期実績

※1
主力のGRCセキュリティ事業は好調、増収増益
前期に中断した大型プロジェクトの影響でフィナンシャルテクノロジー事業は計画未達

売上高

2,663 百万円
前年同期比 8.0 %増

売上総利益率

26.8 %
前年同期比 2.0pt減

EBITDA ※2

66 百万円
前年同期比 27.9 %増

営業利益

△35 百万円
前年同期比 51 百万円増

通期見通し

- ✓ GRCセキュリティ事業は計画を上振れて着地見込み。
- ✓ フィナンシャルテクノロジー事業において期末までに想定される損失は合計434百万円、そのため通期業績予想を修正。
- ✓ 2026年11月期中に、資本増強により債務超過を解消予定。2027年11月期に向けた収益構造改善を図る。

※1：GRC＝ガバナンス・リスクマネジメント・コンプライアンス。企業が組織を適切に運営するための統合管理手法。
※2：EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

(単位：百万円)	2025/11 Q3	2026/11 Q3	増減額	増減率	2026/11 通期業績予想 (2026年1月公表)	進捗率 (通期業績予想比)
売上高	2,465	2,663	197	8.0%	3,678	72.4%
売上総利益	711	714	2	0.4%	1,087	65.7%
売上高総利益率	28.9%	26.8%	△2.0pt	—	29.6%	△2.7pt
販売費及び一般管理費	798	750	△48	△6.1%	968	77.4%
EBITDA	52	66	14	27.9%	235	28.4%
営業利益	△86	△35	51	—	119	—
経常利益	△110	△53	56	—	100	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△85	△55	30	—	67	—

※：EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

- ✓ 2026年11月期通期決算において、フィナンシャルテクノロジー事業に関わる353百万円の減損損失を計上見込み
- ✓ 貸倒引当金繰入額を81百万円計上見込み

特別損失（減損損失）について

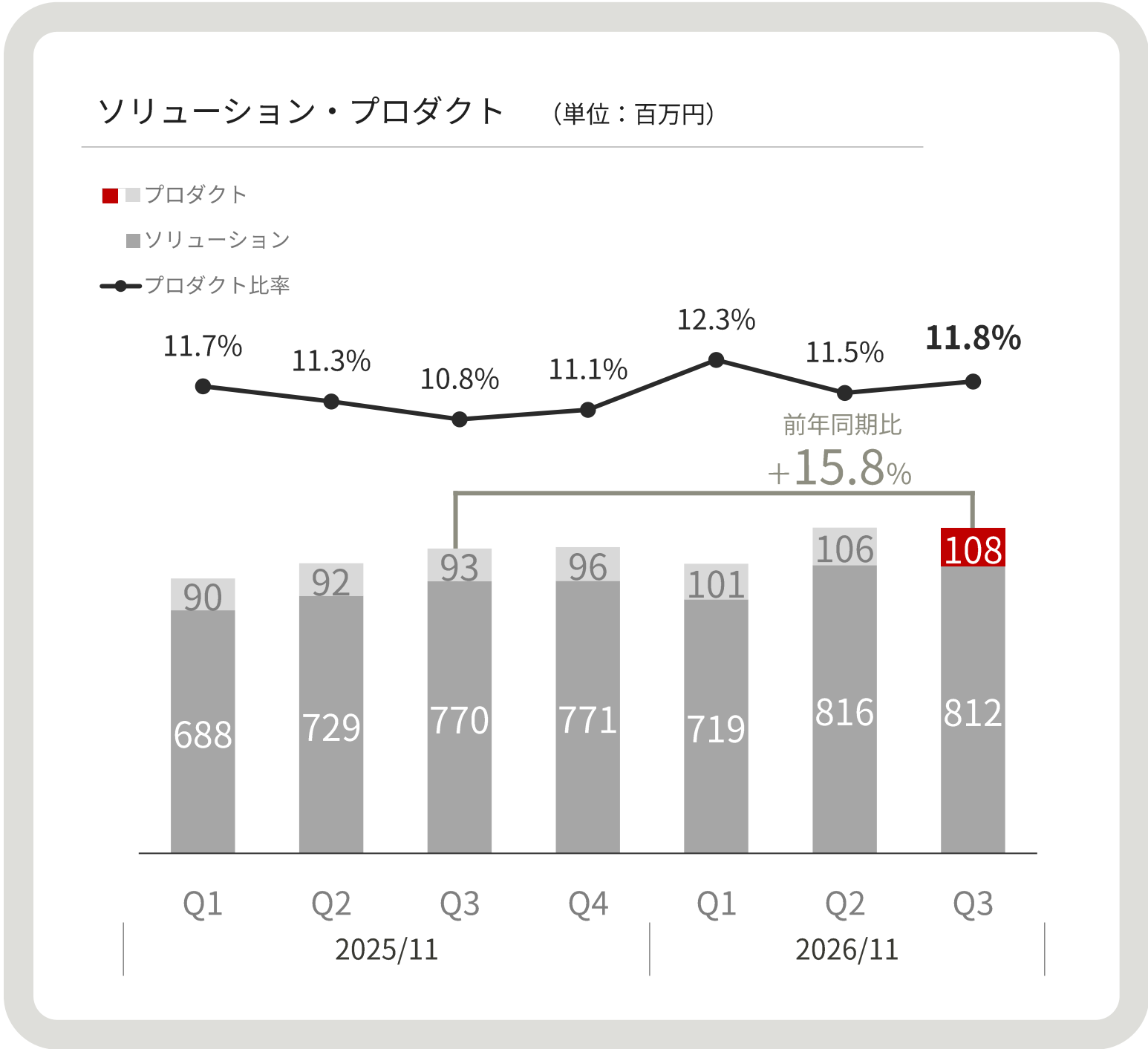
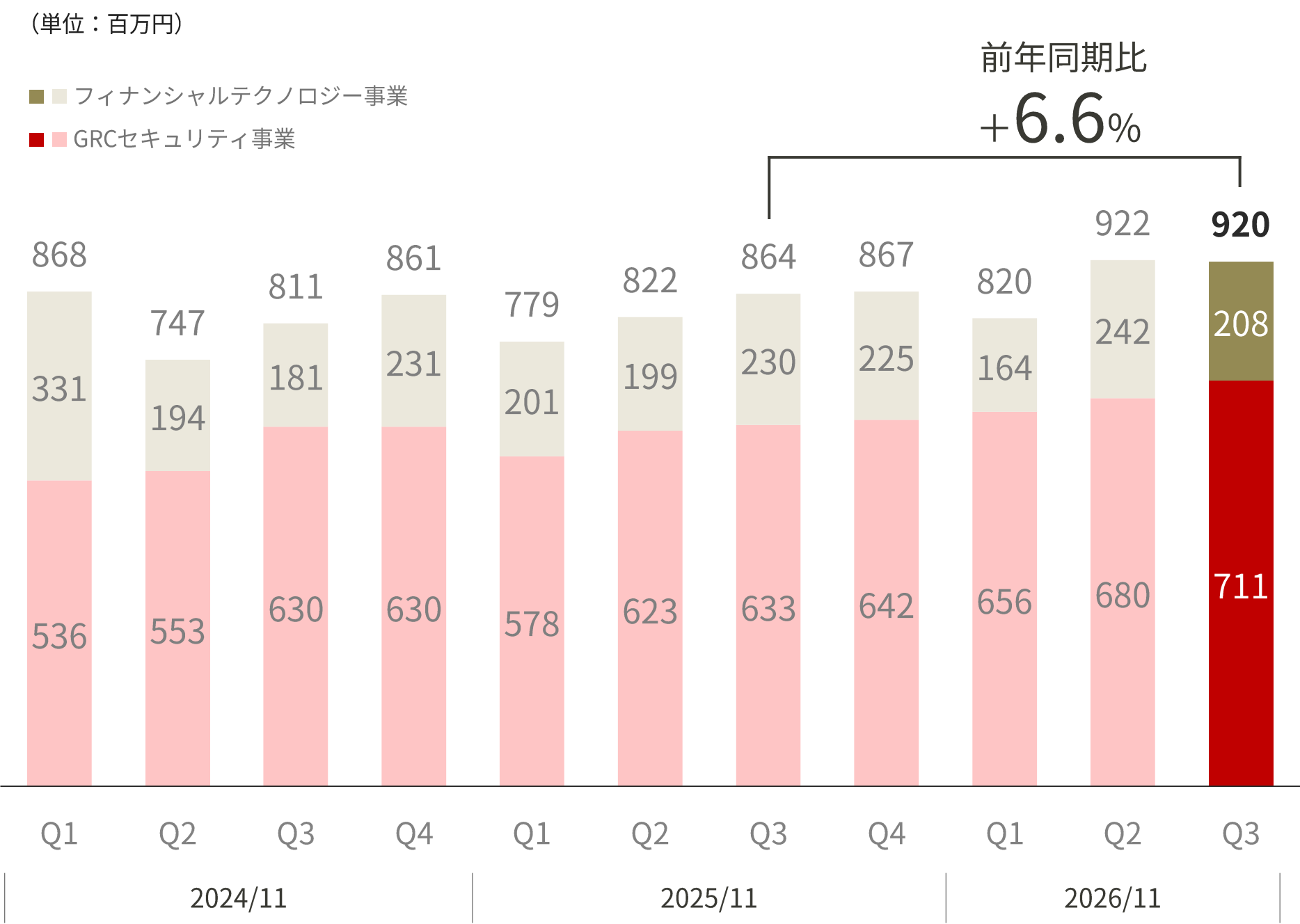
- ✓ フィナンシャルテクノロジー事業が計画通りに進捗していないことから、直近の業績状況を鑑み当該事業に係るソフトウェア及びのれんの回収可能性を検討
- ✓ ソフトウェア及びのれんの減損損失として現時点での予測として最大353百万円の特別損失を計上見込み
- ✓ 2027年11月期以降、ソフトウェア及びのれん償却額負担が減少し営業利益の改善に貢献

貸倒引当金繰入額について

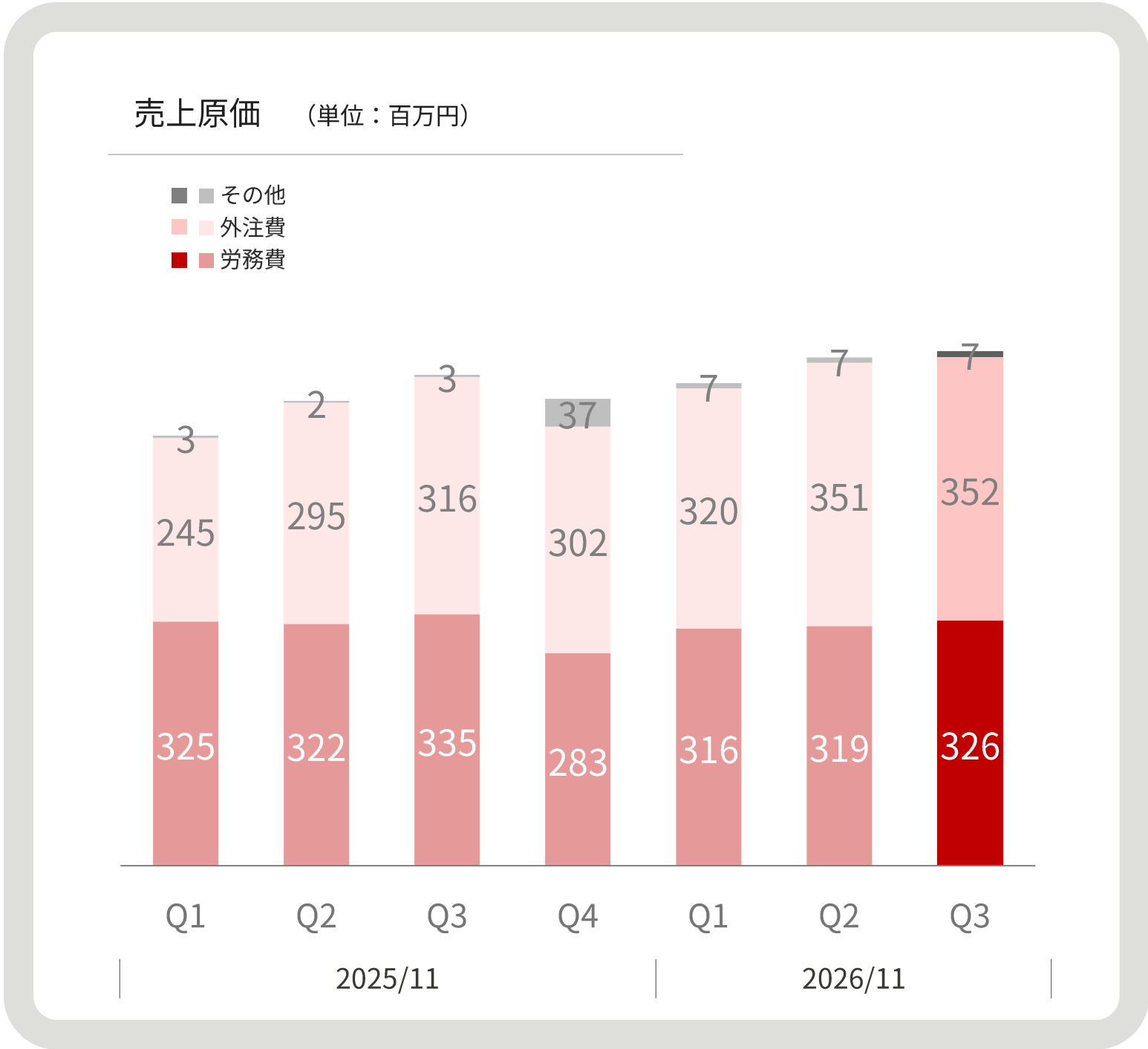
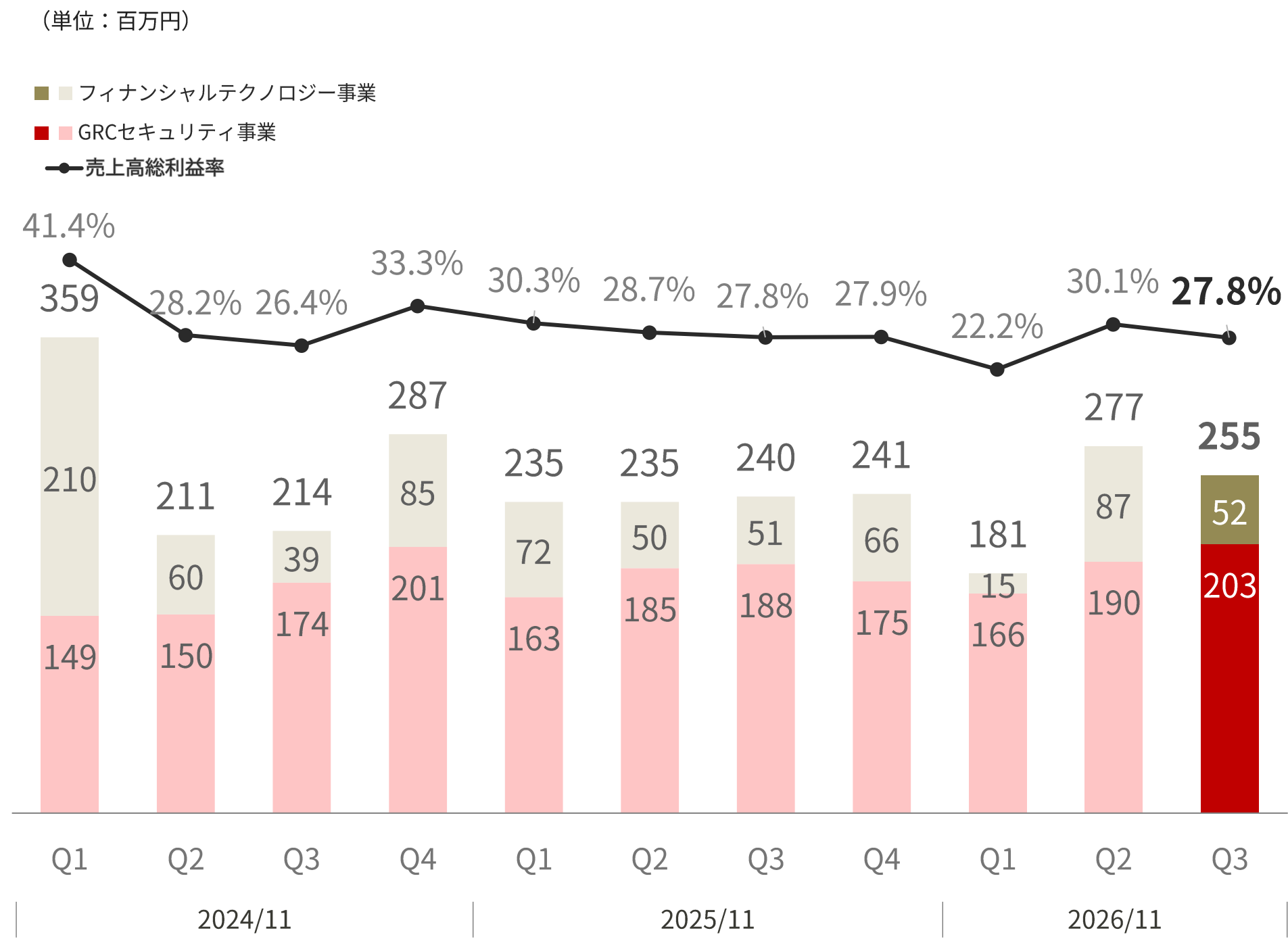
- ✓ フィナンシャルテクノロジー事業において2025年11月期より中断となっている証券会社の大型プロジェクトに関して既に履行済みの契約資産の一部について回収可能性に疑義が生じた結果、第4四半期会計期間に貸倒引当金繰入額81百万円を計上する見込み

開示すべき情報が明らかとなった場合には、速やかに適切な方法にてお知らせいたします。

- ✓ GRCセキュリティ事業では顧客の深耕が引き続き好調、フィナンシャルテクノロジー事業では受注遅延が発生
- ✓ セキュリティ対策強化やリスク管理DX化の需要拡大を背景に、プロダクト売上高は前年同期比15.8%増



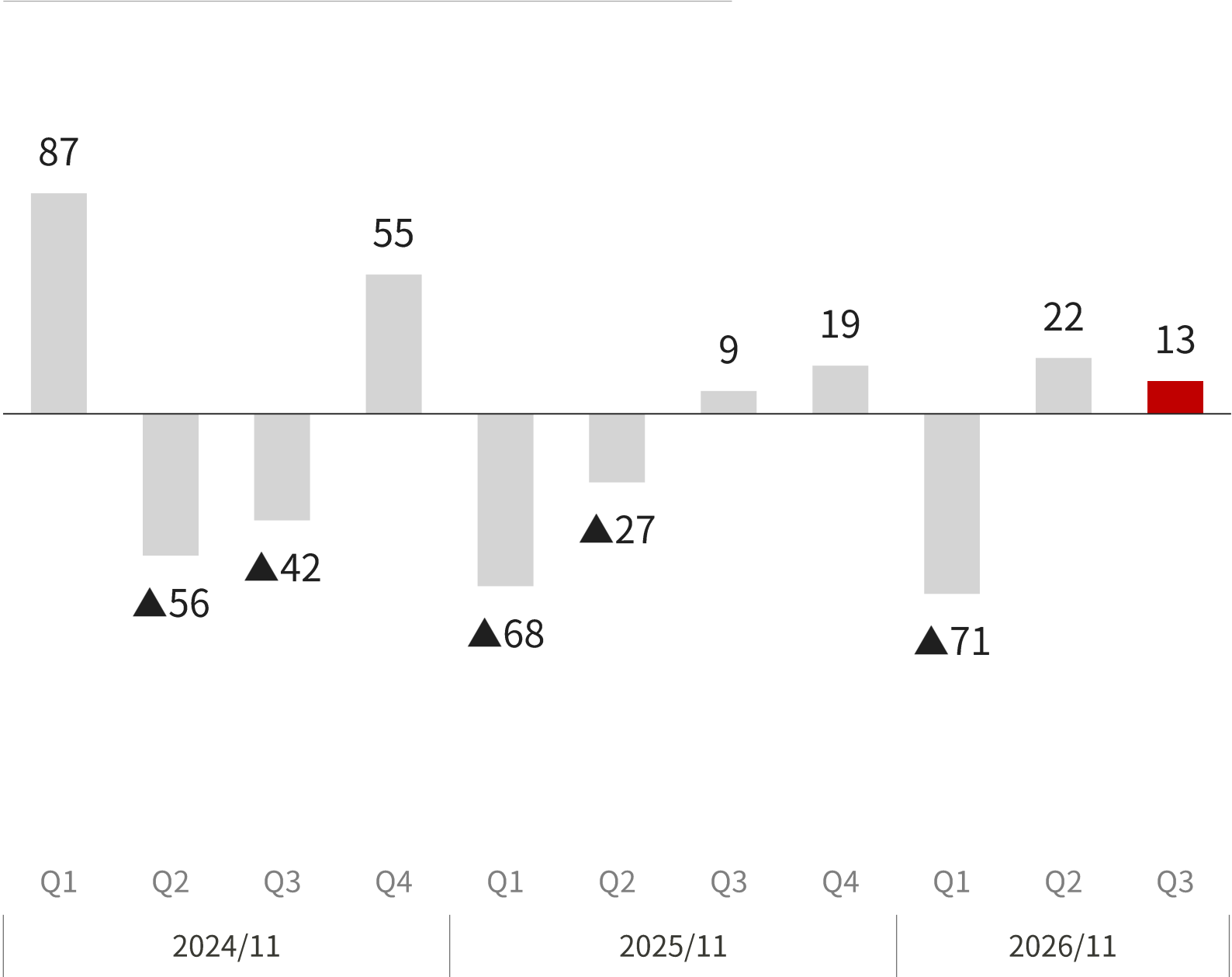
- ✓ GRCセキュリティ事業は、売上高の拡大に伴い売上総利益は増加
- ✓ フィナンシャルテクノロジー事業は、売上高未達の方で売上原価が横ばいのため売上総利益は下振れ



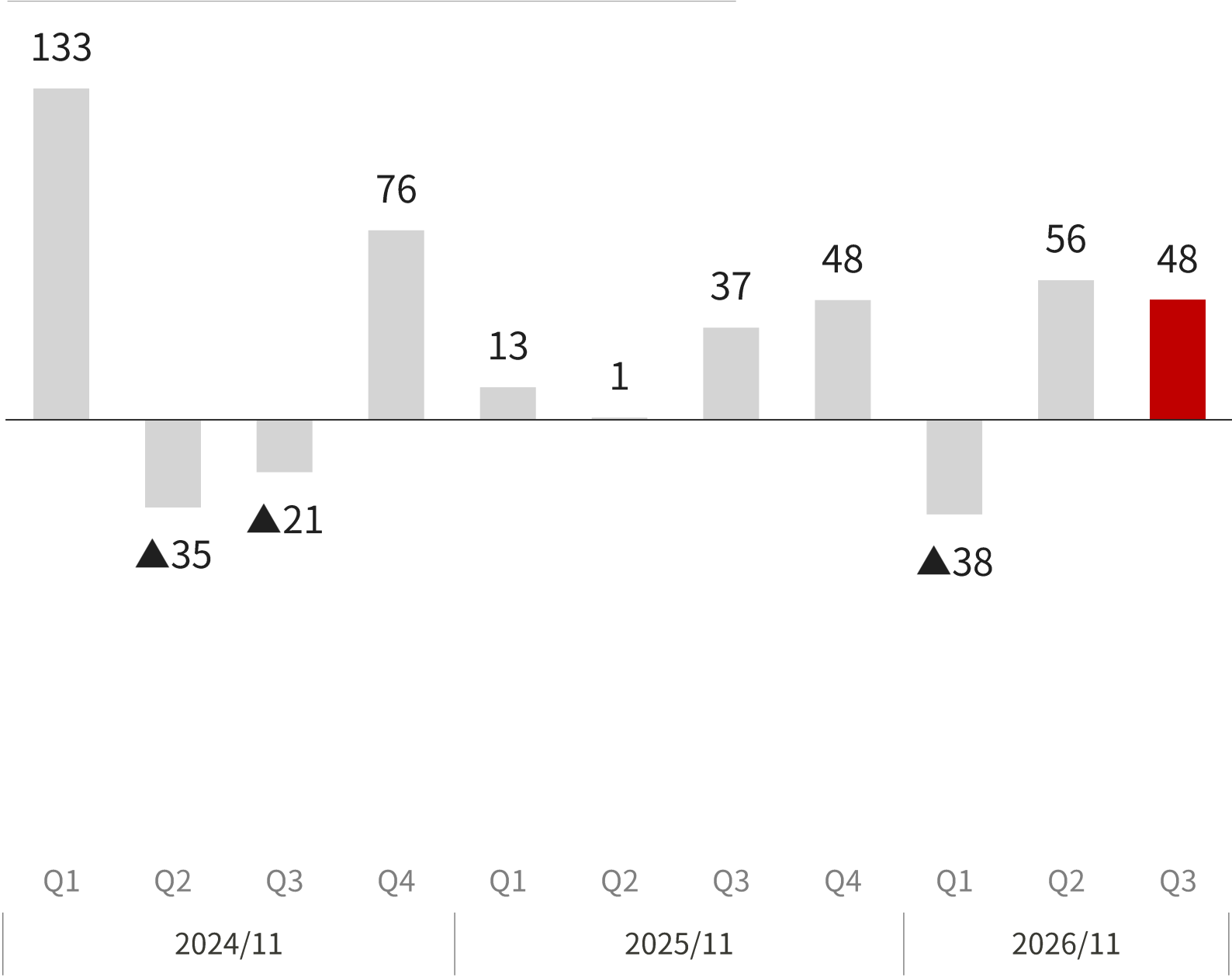
※：今期より2事業に区分しており、過年度に遡及して表示しております

✓ 販売費及び一般管理費推移の抑制が寄与し、営業利益およびEBITDAは黒字を維持

営業利益（単位：百万円）



EBITDA（単位：百万円）

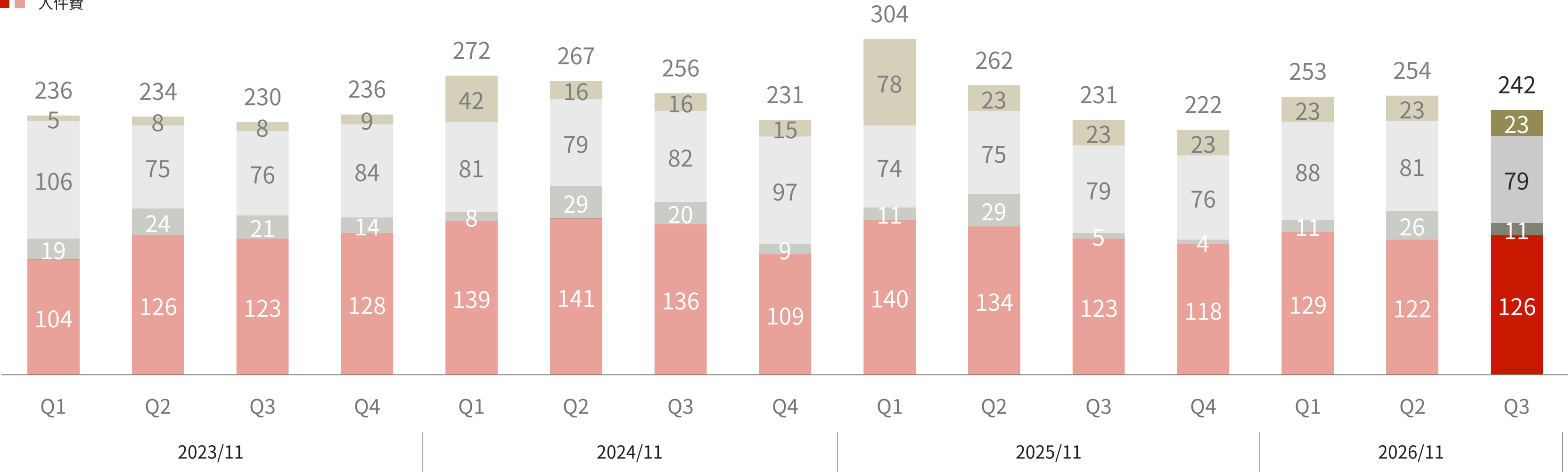


※：EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

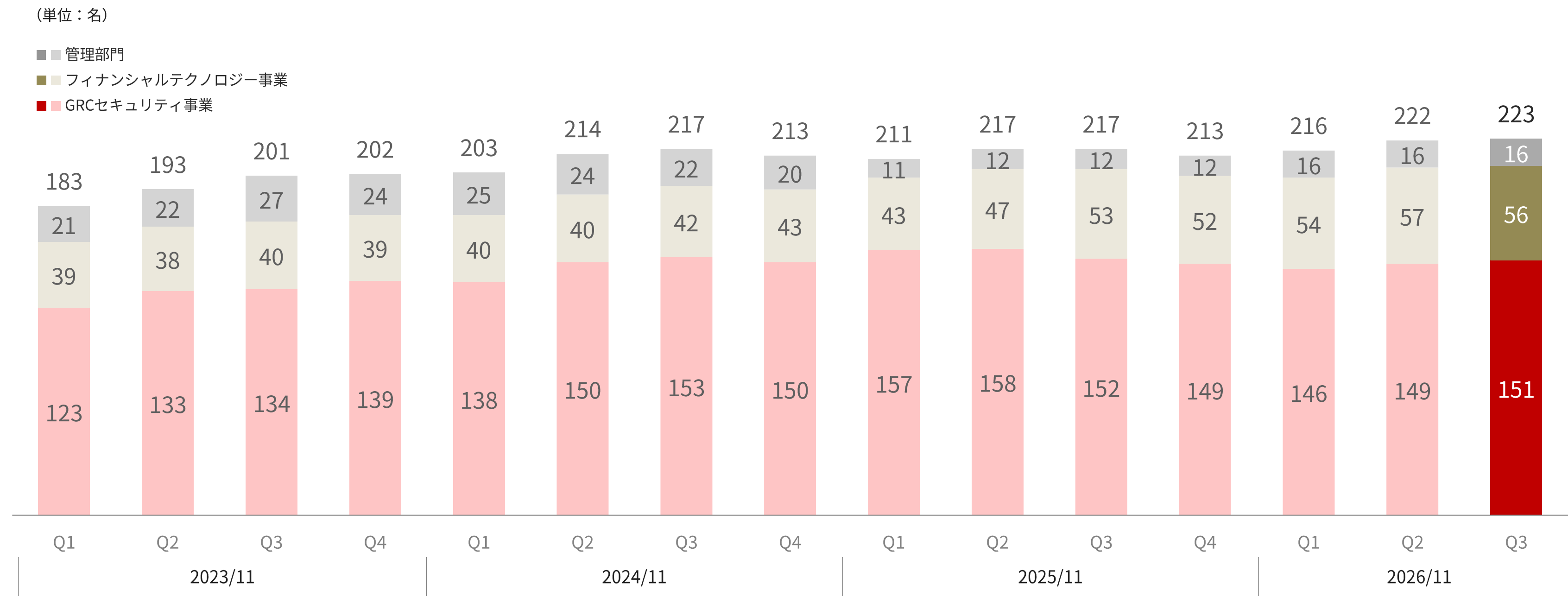
✓ 子会社設立に伴う費用や人的投資が発生するも、コストは引き続き抑制

(単位：百万円)

- のれん償却額
- その他
- 採用教育費
- 人件費



- ✓ 採用活動は計画通り進捗するも、退職者の発生により人員数は横ばい
- ✓ 引き続き積極的に採用活動を実施



※：今期より2事業に区分しており、過年度に遡及して表示しております

- ✓ 2026年8月末時点では債務超過は解消
- ✓ 引き続き財政基盤の安定化に向け収益構造の改善ならびに資本増強施策を推進

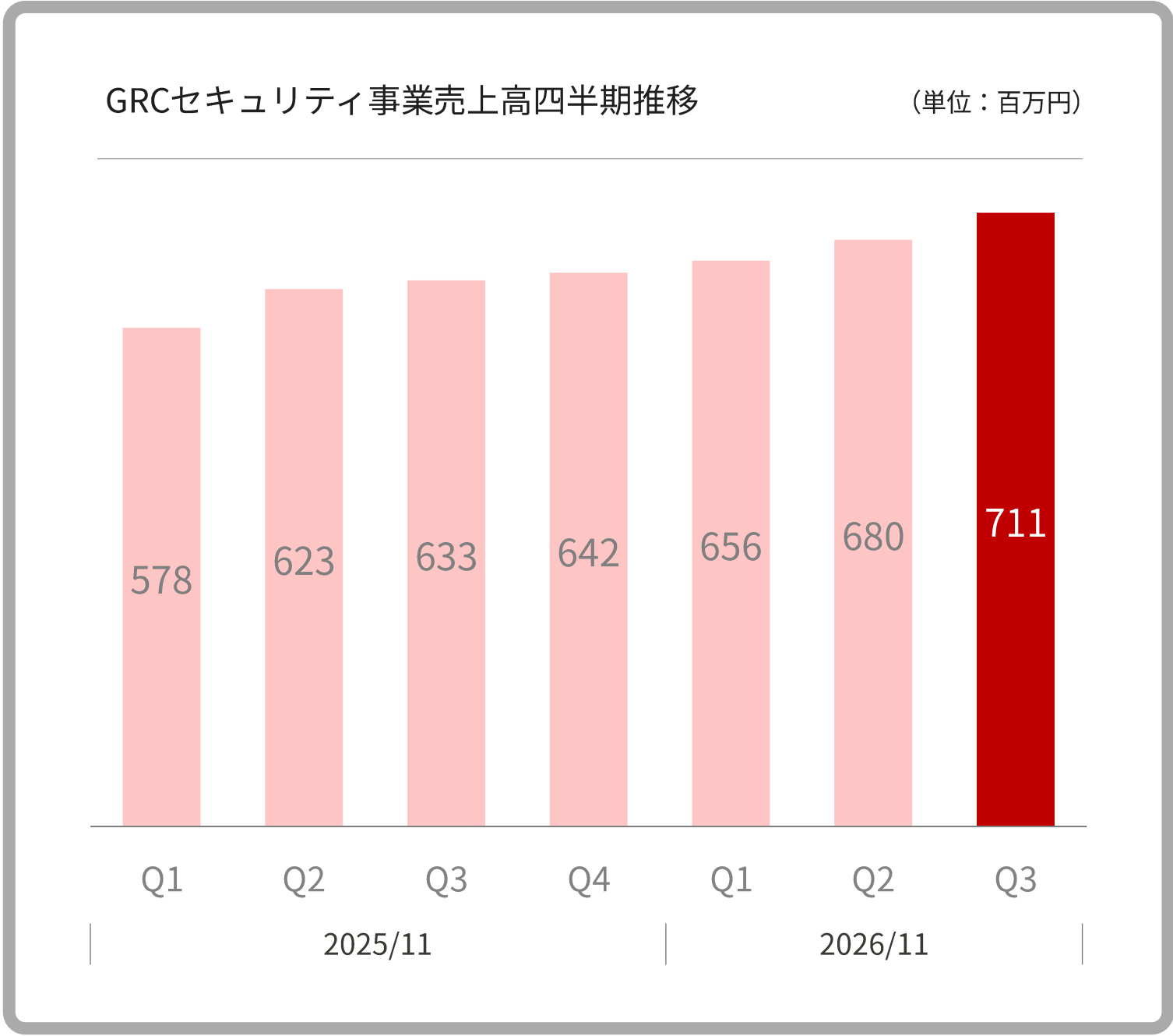
(単位：百万円)	2025/11 通期実績	2026/11 3 Q末実績	増減額
流動資産	1,069	937	△131
現金及び預金	530	308	△222
固定資産	643	626	△16
資産合計	1,713	1,564	△148
流動負債	927	971	43
固定負債	881	587	△294
負債合計	1,809	1,559	△250
株主資本	△136	△27	108
純資産合計	△95	5	101
負債・純資産合計	1,713	1,564	△148

※今後の見通しについてはP.22を参照ください

2. 事業別進捗状況

- ✓ 引き続き既存顧客の深耕は好調に推移しており追加の大型プロジェクトを受注
- ✓ AIガバナンス関連サービスやセキュリティ対策の引き合いが増加し新規顧客を獲得、売上に貢献
- ✓ 売上高総利益率は外注費の増加に伴い前年同期比で下振れるも、収益性は改善傾向

(単位：百万円)	2025/11 Q3	2026/11 Q3	増減額	増減率	2026/11 通期業績予想 (2026年1月公表)	進捗率 通期業績予想比
売上高	1,835	2,048	212	11.6%	2,676	76.5%
売上総利益	537	559	22	4.2%	714	78.3%
売上高 総利益率	29.3%	27.3%	△1.9pt		26.7%	+0.6pt



株式会社Elithとの協業により、企業の「シャドーAI」対策と安全なAI利活用を支援



「シャドーAI」リスクへの包括的な支援パッケージを提供

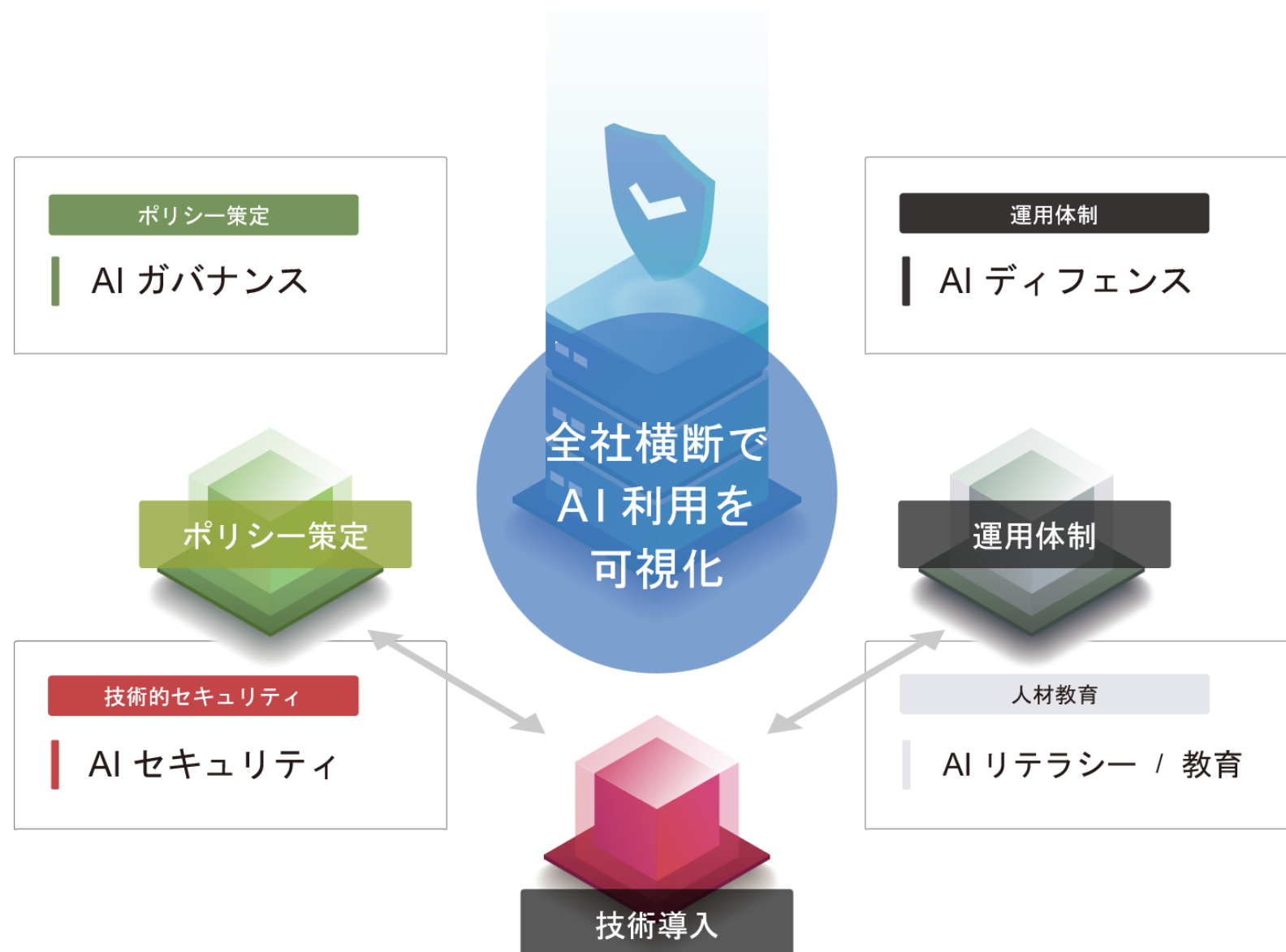
- 未承認AIの利用による情報漏洩リスクに対し、一律禁止ではなく安全な業務利用とガバナンス構築を支援
- AIガイドライン策定、リテラシー研修、利活用支援、利用状況の可視化までワンストップで提供

生成AI利用可視化・統制ツール「GENFLUX Security」の展開

- 機密情報が送信される前のリアルタイム制御や、国内法制度に最適化した日本語対応により、生産性と安全性を両立
- ブラウザ拡張機能を起点とした手軽な導入



企業のAI利用拡大に伴うリスクへ対応する全社的なAI利活用とガバナンス体制を実現



- 「AIセキュリティ」「AIガバナンス」「AIディフェンス」「AIリテラシー／教育」の4領域を網羅する包括的支援体制へサービスを刷新、組織ニーズに応じた支援を提供
- AI活用を現場の裁量に委ねず、経営層の視点で可視化・統制・制御する体制を構築

特許技術「バックグラウンド認証®」により、利便性とセキュリティ強化の両立を実現



DZ Security®

複数の生体情報とふるまい情報を
バックグラウンドで 利用中ずっと認証する
世界初の本人認証技術

IEEE

本認証アルゴリズムは、バイオメトリクス（生体認証）
技術に関する研究と、発展を促進する国際的な学術会議
IEEE(IJCB) に採録されました。

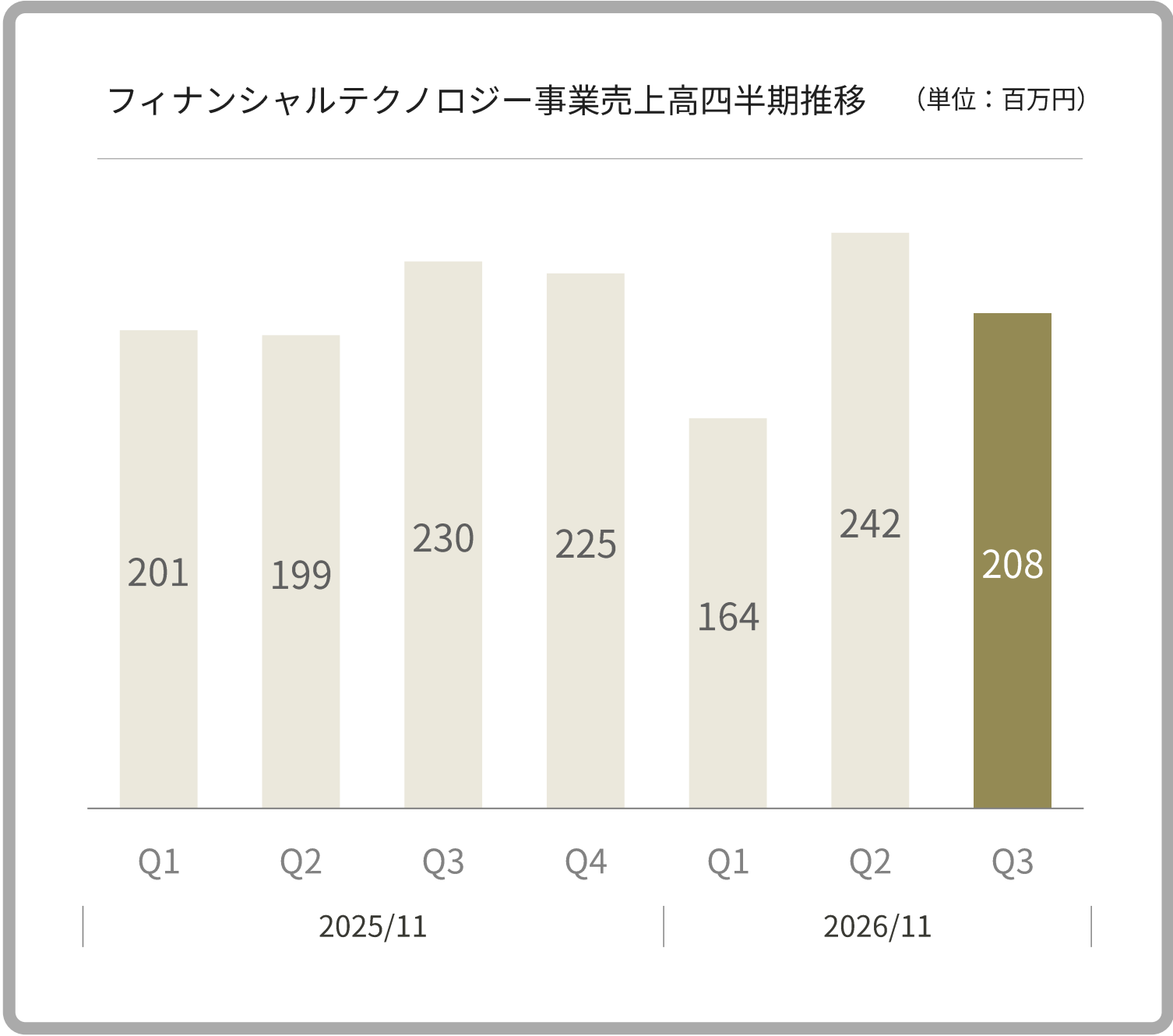
The graphic features a dark blue background with white text and icons. On the right, there is a stylized illustration of a hand holding a smartphone, with a key icon on the screen. To the left of the phone, there are icons representing biometric data (a face and a fingerprint) and a signal wave. The IEEE logo is prominently displayed in the center.

- パスワードやワンタイムパスワードの入力は不要、ユーザーに負担をかけないログイン体験
- ログイン後もユーザーを識別し続ける強固なセキュリティ認証

※「DZ Security」「バックグラウンド認証」は、株式会社AnchorZの日本における登録商標です。

- ✓ 大型プロジェクト中断が営業活動に影響し、新規プロジェクトの受注や収益性の高いライセンス販売が難航
- ✓ 売上高が計画未達的一方、売上原価となる労務費等を維持したため売上総利益が計画を下回る

単位：百万円	2025/11 Q3	2026/11 Q3	増減額	増減率	2026/11 通期業績予想 (2026年1月公表)	進捗率 通期業績予想比
売上高	630	615	△14	△2.4%	1,001	61.5%
売上総利益	174	154	△19	△11.2%	373	41.5%
売上高 総利益率	27.7%	25.2%	△2.5pt		37.3%	△12.1pt



3. 通期業績予想の修正

- ✓ 通期業績予想を修正。売上高は3,569百万円（対 期初計画 2.9%減）
- ✓ 貸倒引当金の計上見込みにより営業利益は△130百万円（対 期初計画 249百万円減）
- ✓ 減損損失について現時点での予測を織り込み、当期純損失は△512百万円（対 期初計画580百万円減）へ修正

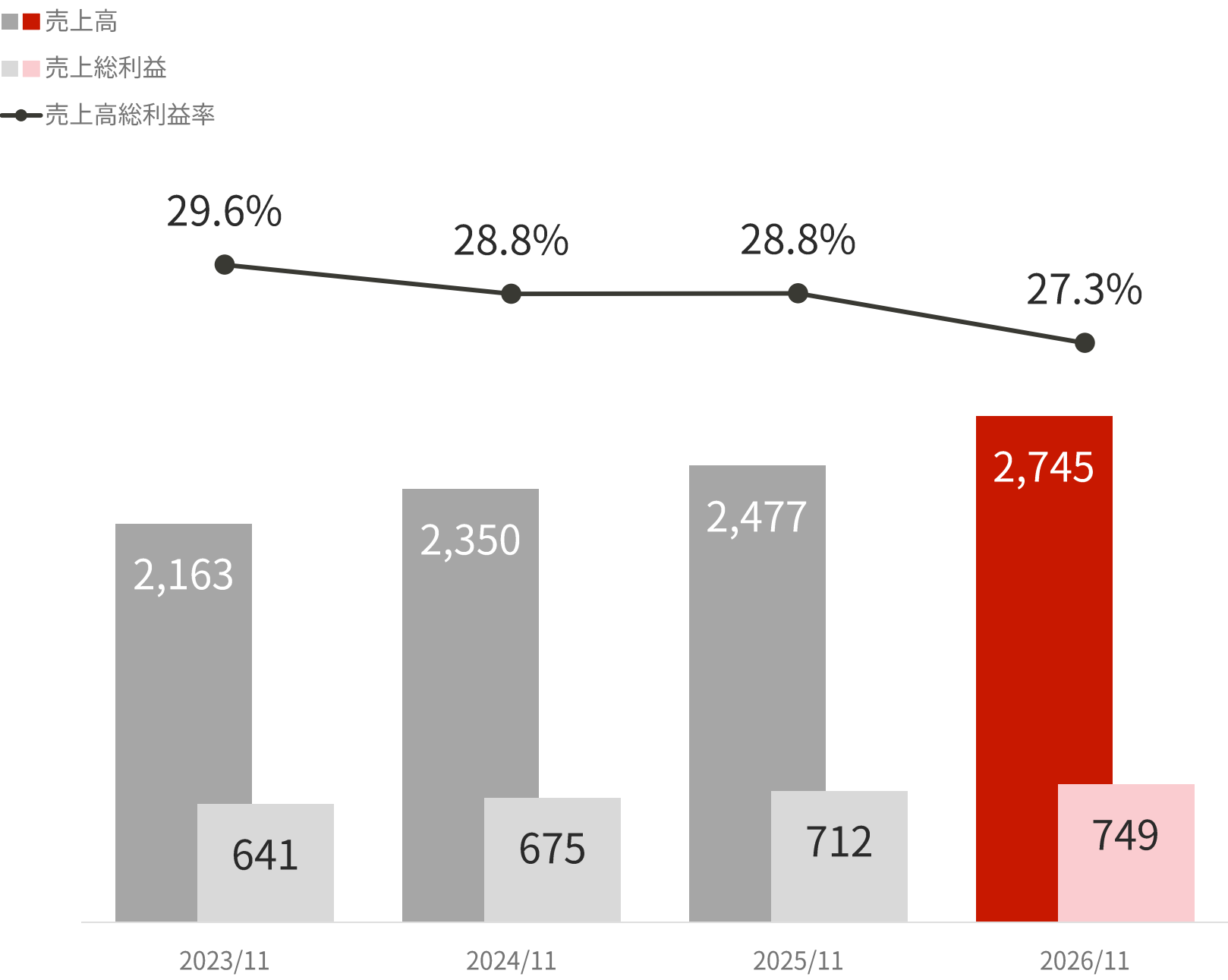
(単位：百万円)	2026/11			対 期初計画		対 前期	
	2025/11	期初予想	修正予想	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	3,333	3,678	3,569	△108	△2.9%	235	7.1%
GRCセキュリティ	2,477	2,676	2,745	68	2.6%	268	10.8%
フィナンシャル テクノロジー	856	1,001	824	△177	△17.7%	△32	△3.8%
EBITDA	100	235	6	△228	△97.3%	△93	△93.6%
営業利益	△67	119	△130	△249	—	△62	—
経常利益	△97	100	△157	△257	—	△59	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	△527	67	△512	△580	—	15	—

- ✓ 2026年 2 月 株式会社Fixstars Investmentを割当予定先とした第三者割当増資を実施
- ✓ 2026年 5 月 新株予約権行使
- ✓ 資本増強により2026年11月期中に債務超過を解消予定

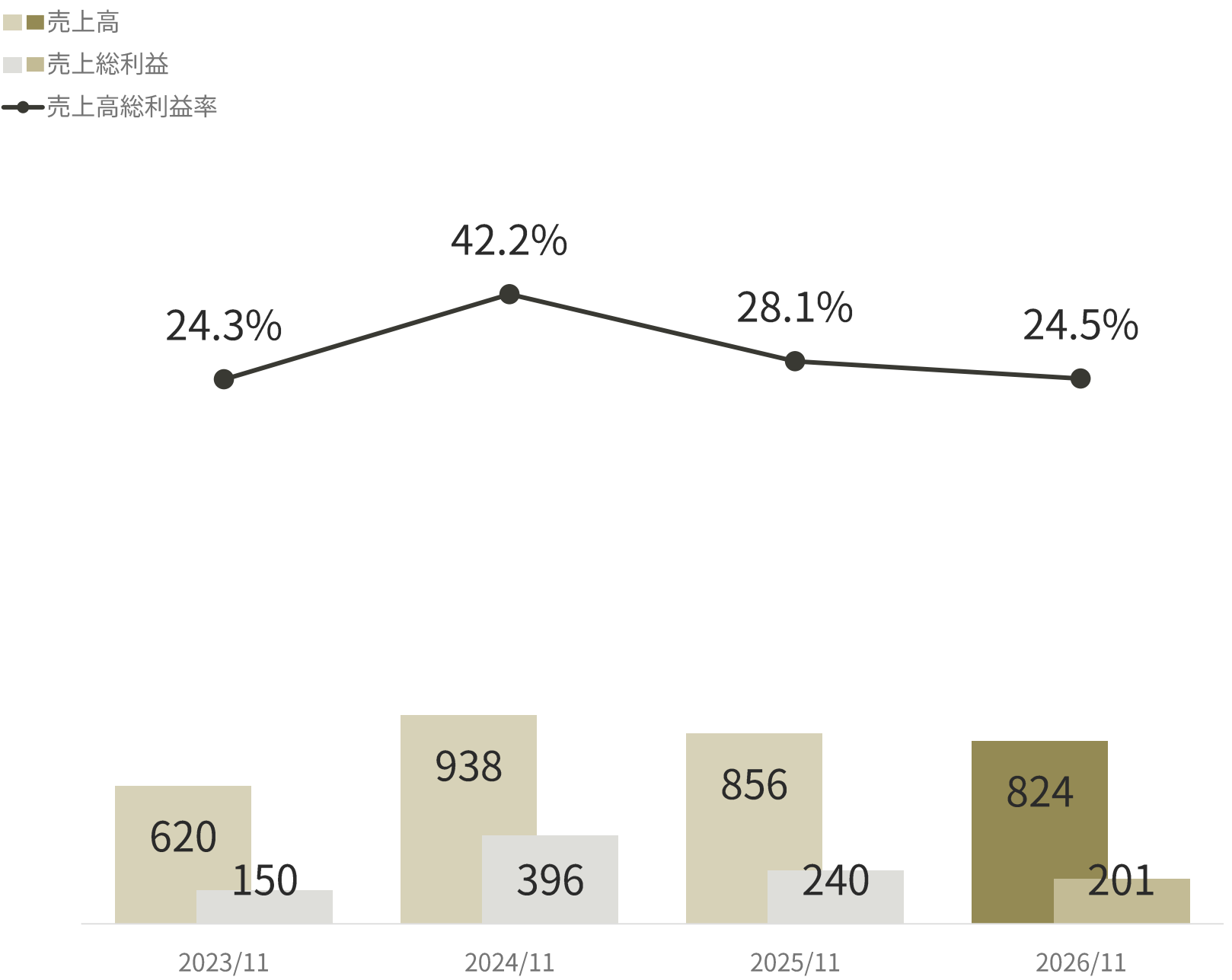
(単位：百万円)	2025/11 通期実績	2026/11 通期見込	増減額
流動資産	1,069	847	△222
現金及び預金	530	337	△193
固定資産	643	267	△376
資産合計	1,713	1,114	△599
流動負債	927	1,074	146
固定負債	881	491	△390
負債合計	1,809	1,565	△244
株主資本	△136	△484	△348
純資産合計	△95	△451	△355
負債・純資産合計	1,713	1,114	△599

(単位：百万円)		2026/11		対 期初計画		修正の要因
		期初予想	修正予想	増減額	増減率	
GRCセキュリティ	売上高	2,676	2,745	68	2.6%	セキュリティ需要の増大により既存顧客の深耕が順調に推移したため第3四半期まで計画を上振れて進捗。 売上高、売上総利益ともに通期計画を上回って着地する見込み。
	売上総利益	714	749	34	4.8%	
	売上高総利益率	26.7%	27.3%	0.6pt	—	
フィナンシャルテクノロジー	売上高	1,001	824	△177	△17.7%	前期に発生した大型プロジェクト中断が営業活動に影響し、新規案件の受注が計画通り進捗していないことから、売上高は17.7%下回る見込み。 売上原価となる労務費等の固定費用削減が困難であるため、売上総利益が計画を大きく下回る見込み。
	売上総利益	373	201	△171	△45.9%	
	売上高総利益率	37.3%	24.5%	△12.8		

GRCセキュリティ（単位：百万円）



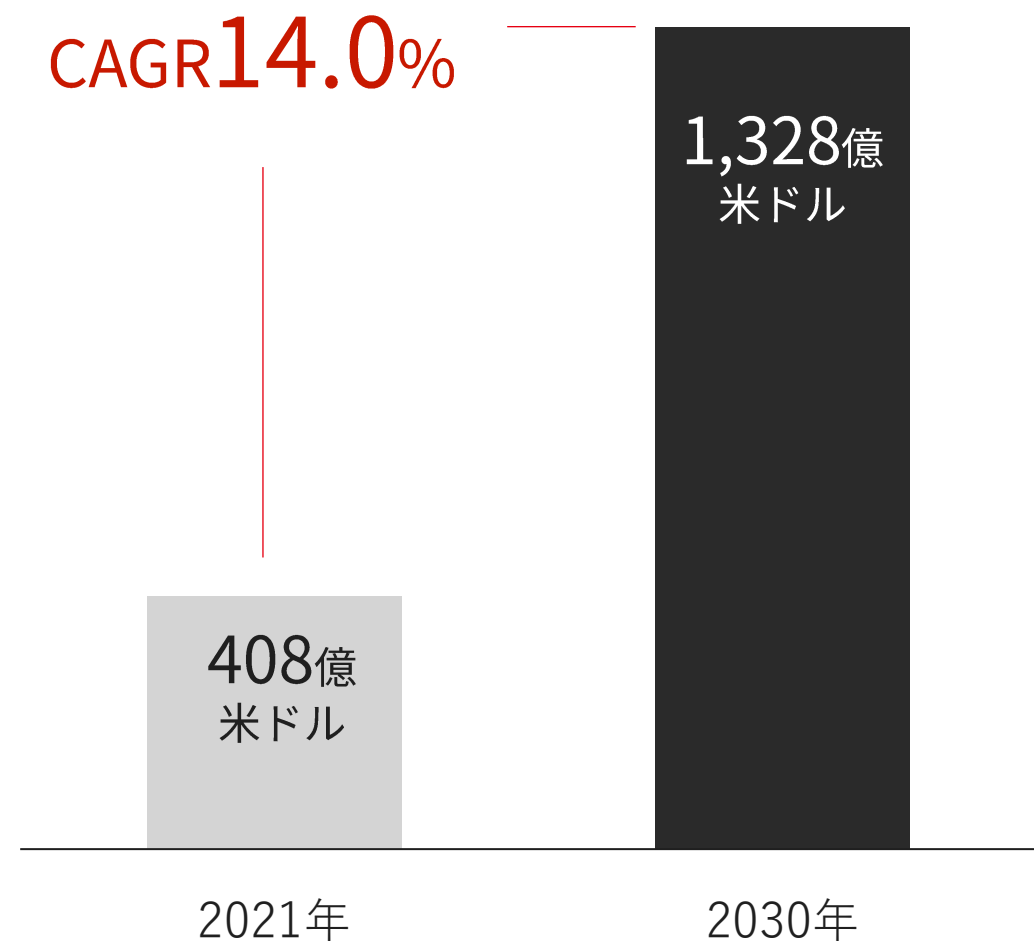
フィナンシャルテクノロジー（単位：百万円）



4. 2030年に向けた成長戦略

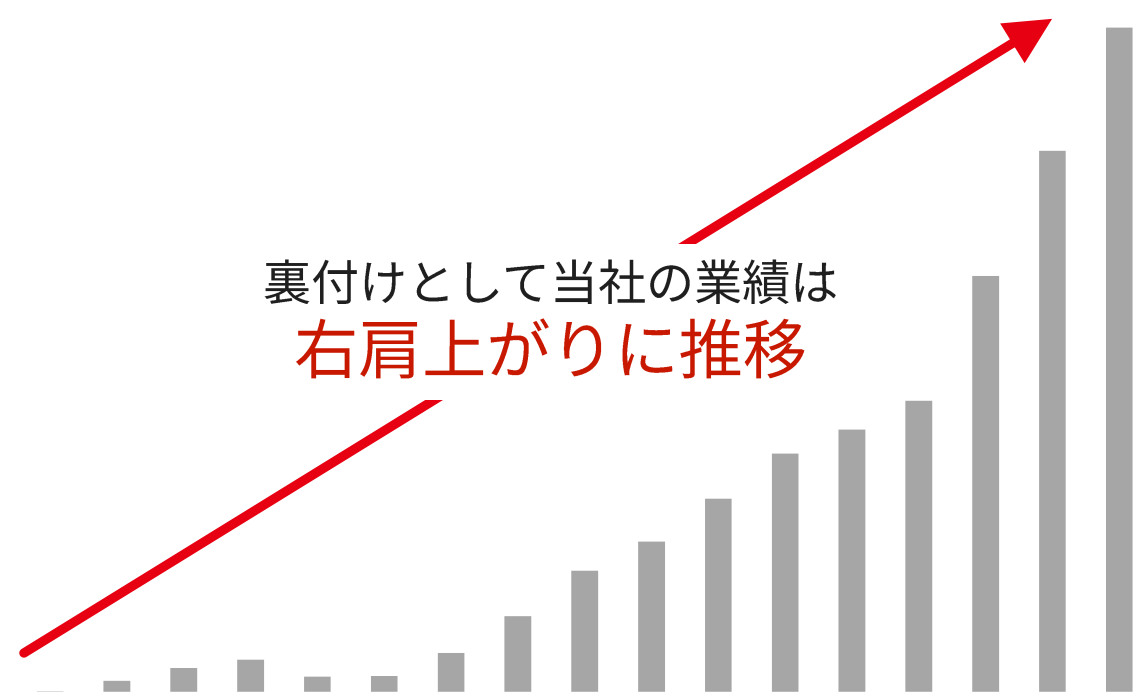
- ✓ 国内のGRC市場についてまだ数字はないが、GRCとセキュリティの対応は企業経営における喫緊の課題
- ✓ 世界のGRC市場は年平均14.0%の成長と予想されており、日本においても同様の成長が見込まれる

 世界のGRC市場 *



 国内GRC市場の成長

GRCが企業経営において標準化されている欧米に追いつくため、**速度の早い市場成長を見込む**



 国内における需要増の背景

- 運用** 法規制・開示対応の複雑化
証跡や監査が必須となり、遵守から“運用”へ
- 経営課題** セキュリティが経営課題に
リスク×セキュリティ管理を一体で運用
- 一元化** 統合管理の需要
統制・委託先管理・報告等を一元管理するための統合プラットフォーム需要増

* : Grand View Research/Enterprise Governance, Risk & Compliance Market Size, Share & Trends Analysis Report By Component, By Software, By Services, By Organization Size, By Vertical, And Segment Forecasts, 2022 – 2030より当社作成

プロダクトへのAI実装に投資 2030年にGRCセキュリティ領域のリーダーへ

- ✓ 既存のビジネスによって獲得した大企業・金融機関の現場における知見を「標準化」し、AIをかけ合わせプロダクトに実装
- ✓ より広い企業層へ向けて、運用できるカタチで届ける

1

専門的知見
の蓄積

2

AI実装による
標準化

3

取引社数の
拡大

4

ストック収益
積み上げ



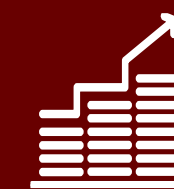
AI × GRCセキュリティ推進

Phase1 | 2026 基盤固め



1,000社
採用へ

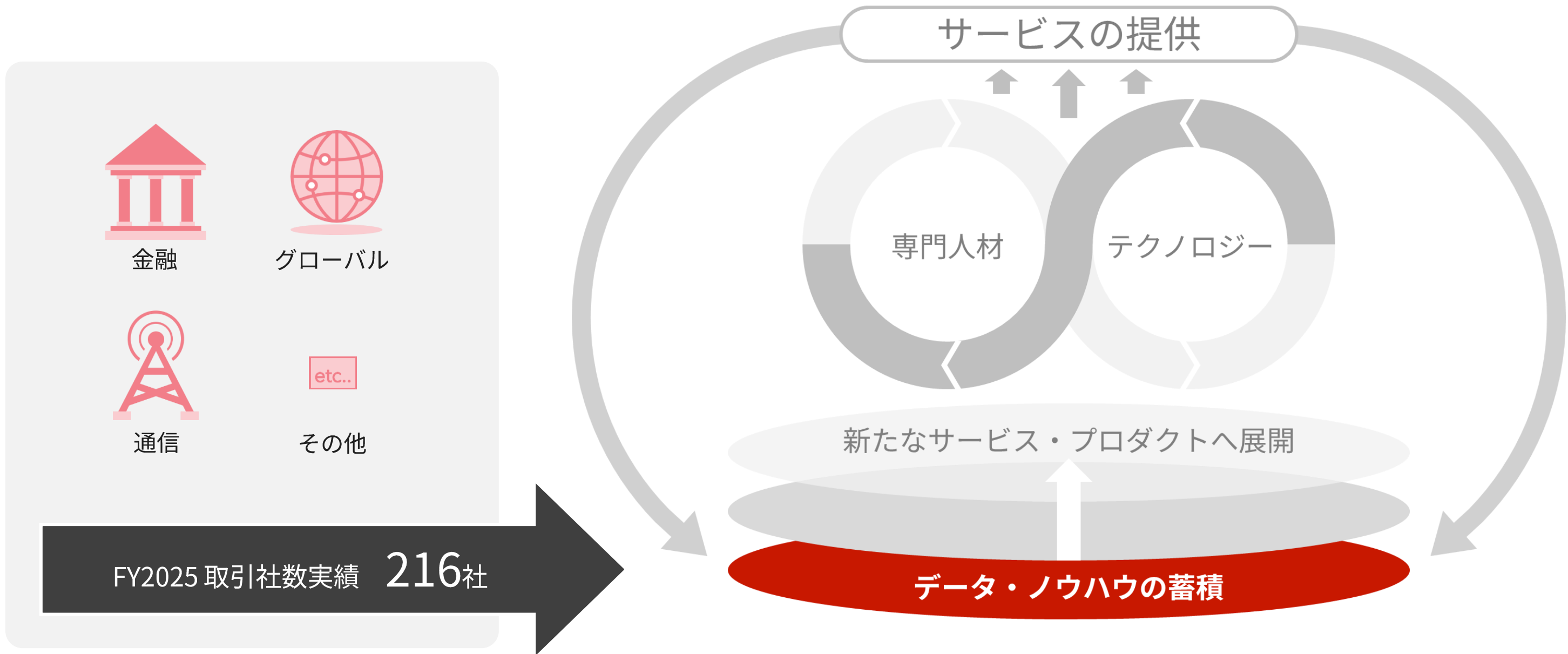
Phase2 | 2027-2028 対象拡大



営業利益
15億円へ

Phase3 | 2029-2030 標準の確立

✓ これまでのサービス提供を通じGRCセキュリティ領域における専門性の高い知見を蓄積

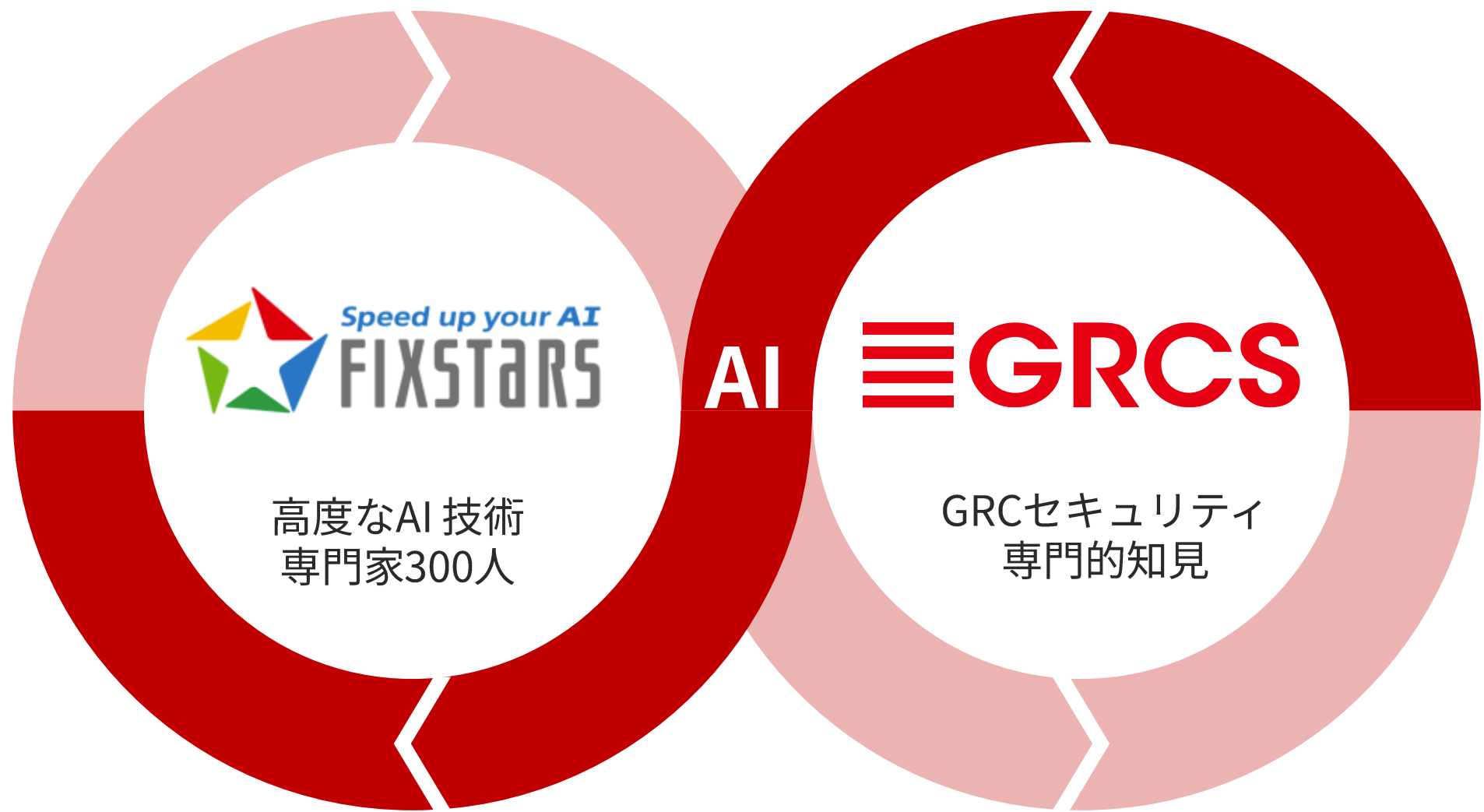


200人規模の専門人材

レギュレーションが厳しい
業種における課題解決

国内有数のGRC専門企業
として17年の実績

✓ 株式会社フィックスターズとの資本業務提携によりGRCセキュリティ特化プロダクトのAI化を加速



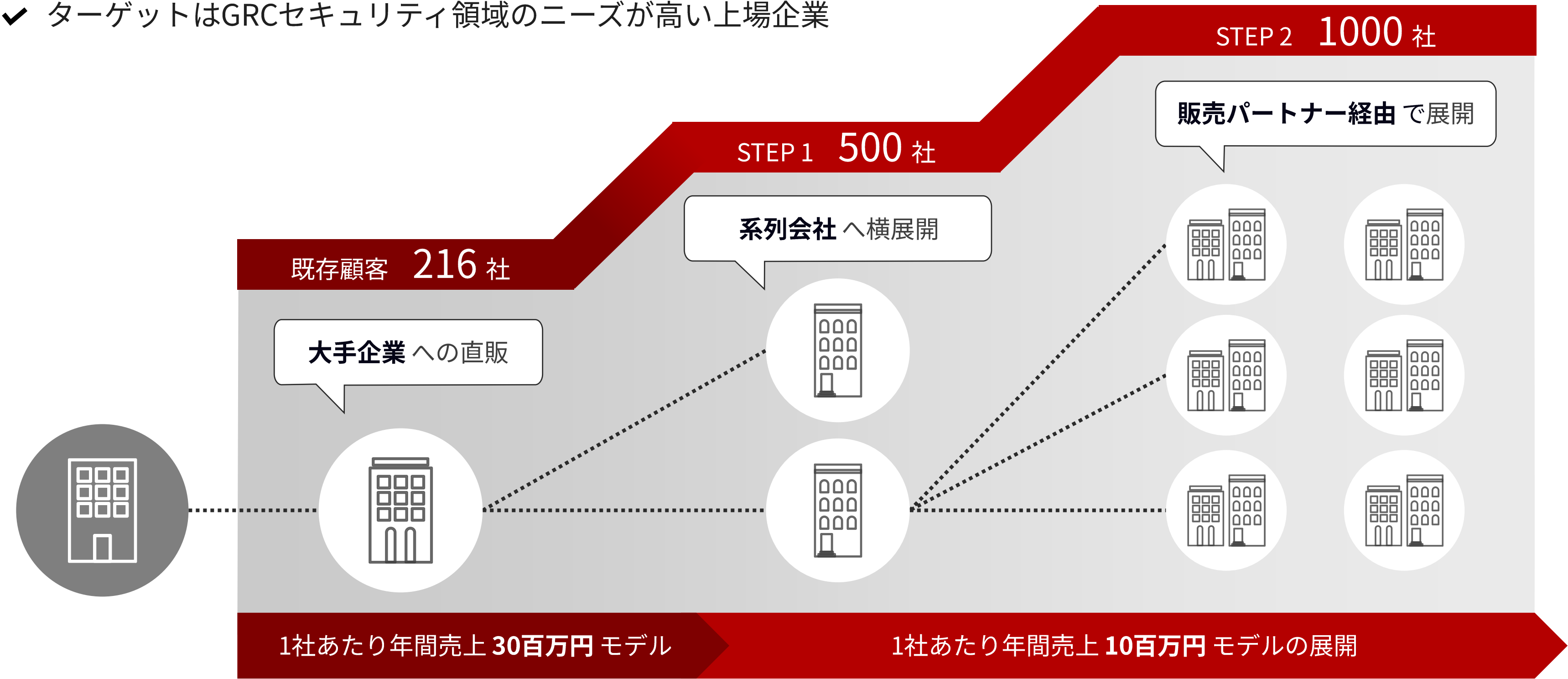
独自のAIモデルを
共同開発

AI化により複雑なGRC
セキュリティ領域の対応を標準化

ターゲット層を拡大

1社あたり
年間取引額10百万円モデル

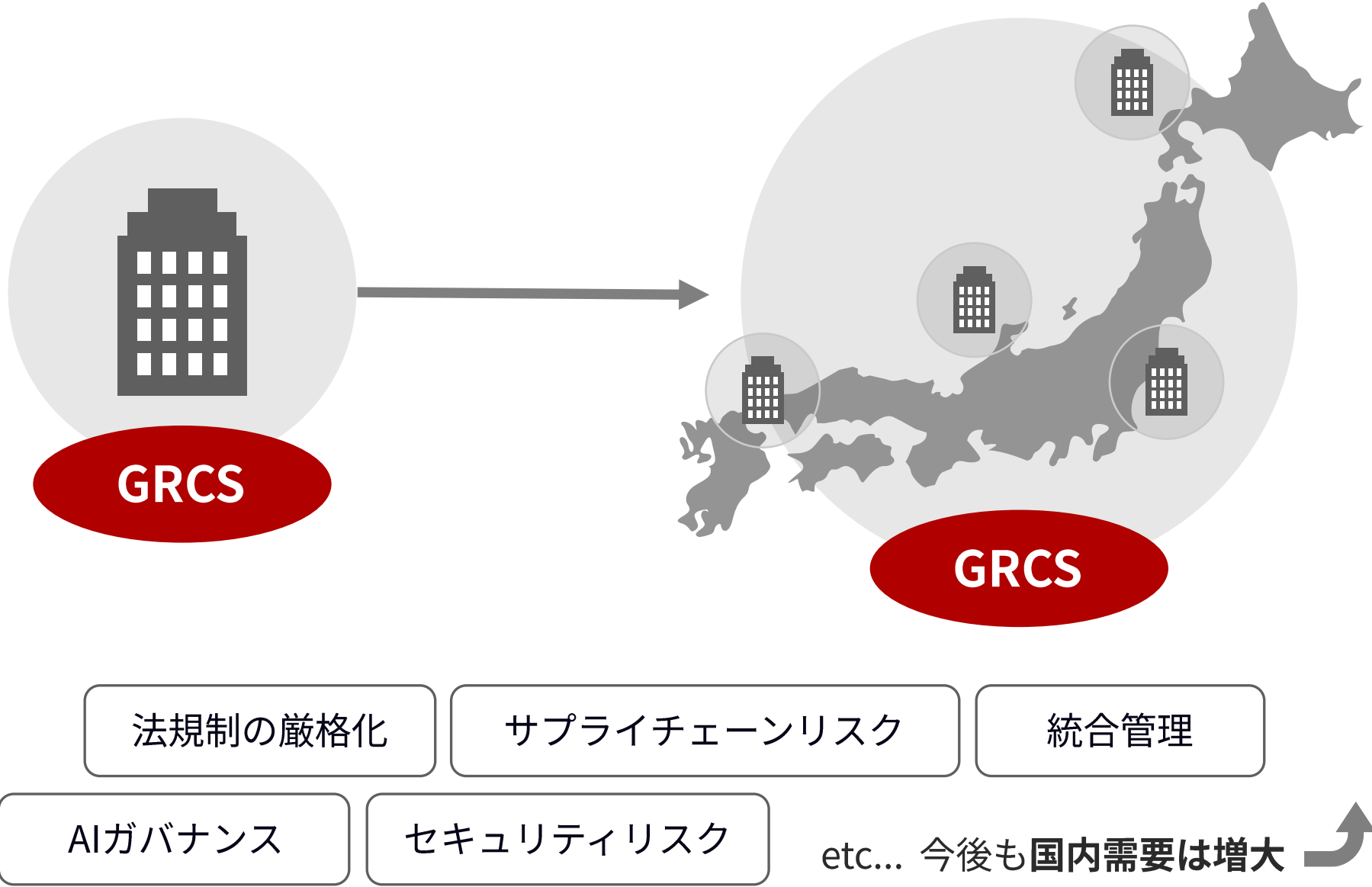
- ✓ 既存の大手取引先を起点に販路を拡大
- ✓ 取引先とのパートナーシップを強化し顧客基盤へアプローチ
- ✓ ターゲットはGRCセキュリティ領域のニーズが高い上場企業



＊：顧客層の拡大をイメージした図であり、実例を反映したものではありません

- ✓ 需要が急増するGRCセキュリティ領域の課題に対しサービスを提供
- ✓ 新たに開発したサービスでのクロスセル、アップセルによって取引額を拡大

企業の需要 から 国内市場の需要 へサービスを拡充



GRCS	
自社サービス	他社製品
Governance ガバナンス体制の構築	
AIガバナンス強化支援	OneTrust
Risk リスクマネジメントの強化	
ENTERPRISE RISK MT SUPPLIER RISK MT	empowered
Compliance コンプライアンス意識の向上	
PCI DSS準拠支援	OneTrust
Security セキュリティ対策の支援	
CSIRT MT.mSS 脆弱性 ZTODAY ランサムウェア インシデント態勢診断	netskope HP Sure Click Enterprise SOCRadar Ridgebot

5. 会社概要

進化に、加速を。

MISSION

私たちの使命は、進化を加速させ、自身も社会も成長させることです。
複雑に変化し続ける世の中で直面する多種多様なリスクへ敏感に迅速に対処するために
私たちは常に新しいことに挑戦し、進化し続けることで
クライアントが安心できるビジネス環境を提供し持続的な企業成長を支えます。

世の中を、テクノロジーでシンプルに。

VISION

私たちが目指すのは、テクノロジーによって「複雑さ」をなくした社会です。
G：ガバナンス、R：リスクマネジメント、C：コンプライアンス、S：セキュリティ領域における
複雑な課題をテクノロジーの活用によってシンプルに解決します。

会社名

株式会社GRCS

設立

2005年3月

決算期

11月

資本金

131百万円（2026年5月31日時点）

所在地

東京都千代田区丸の内一丁目1番1号
パレスビル5階

従業員数

213名（2025年11月末時点・連結）

役員体制

代表取締役社長 佐々木慈和

取締役 塚本拓也

取締役 田中郁恵

取締役 望月淳

社外取締役 久保恵一

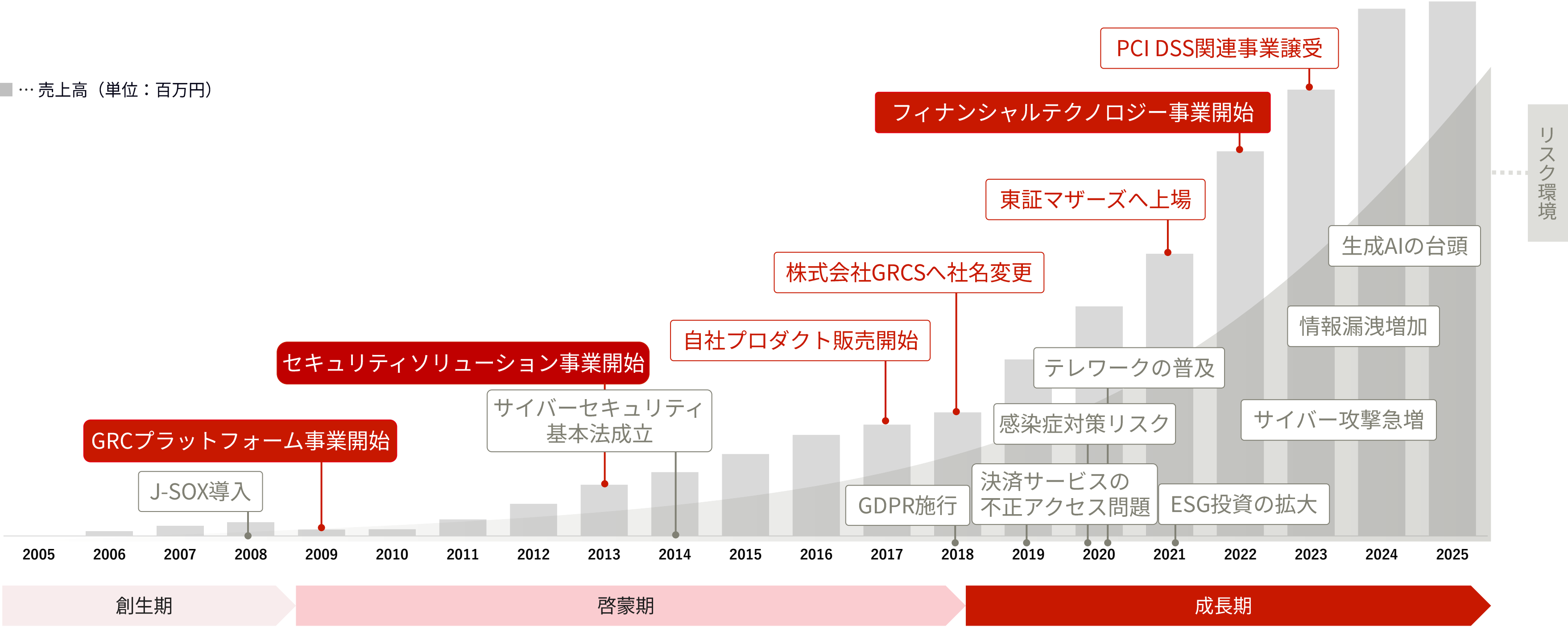
社外取締役 山野修

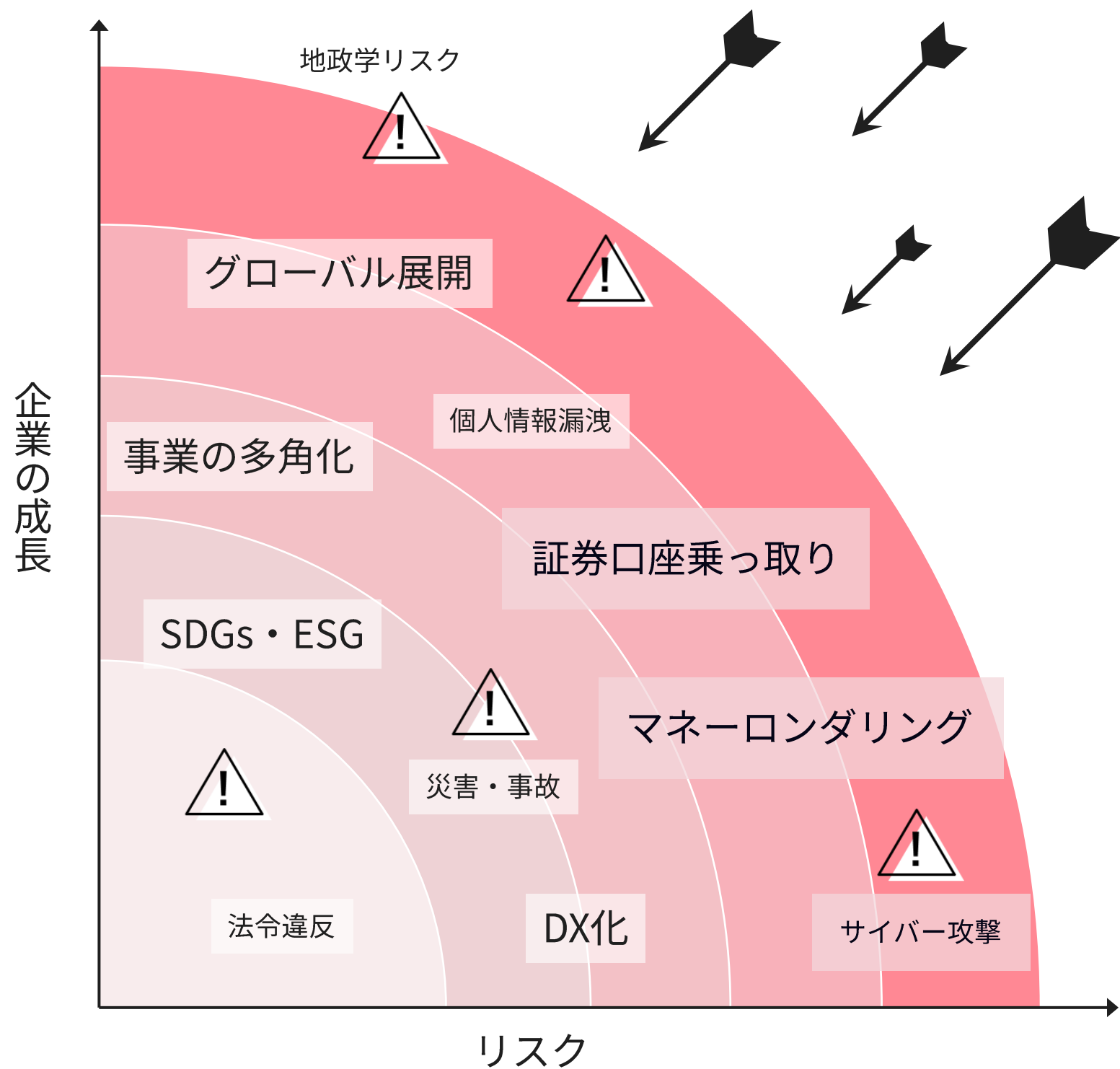
監査役 佐藤尚人

監査役 島田容男

監査役 伊賀志乃

- ✓ リスク環境の変化に応じたサービスを展開し成長
- ✓ 2009年にGRCプラットフォーム事業を開始し、以降の2013年セキュリティソリューション事業開始、2022年フィナンシャルテクノロジー事業開始を経て**16期連続増収**





企業の成長とともにさらされる脅威も増える

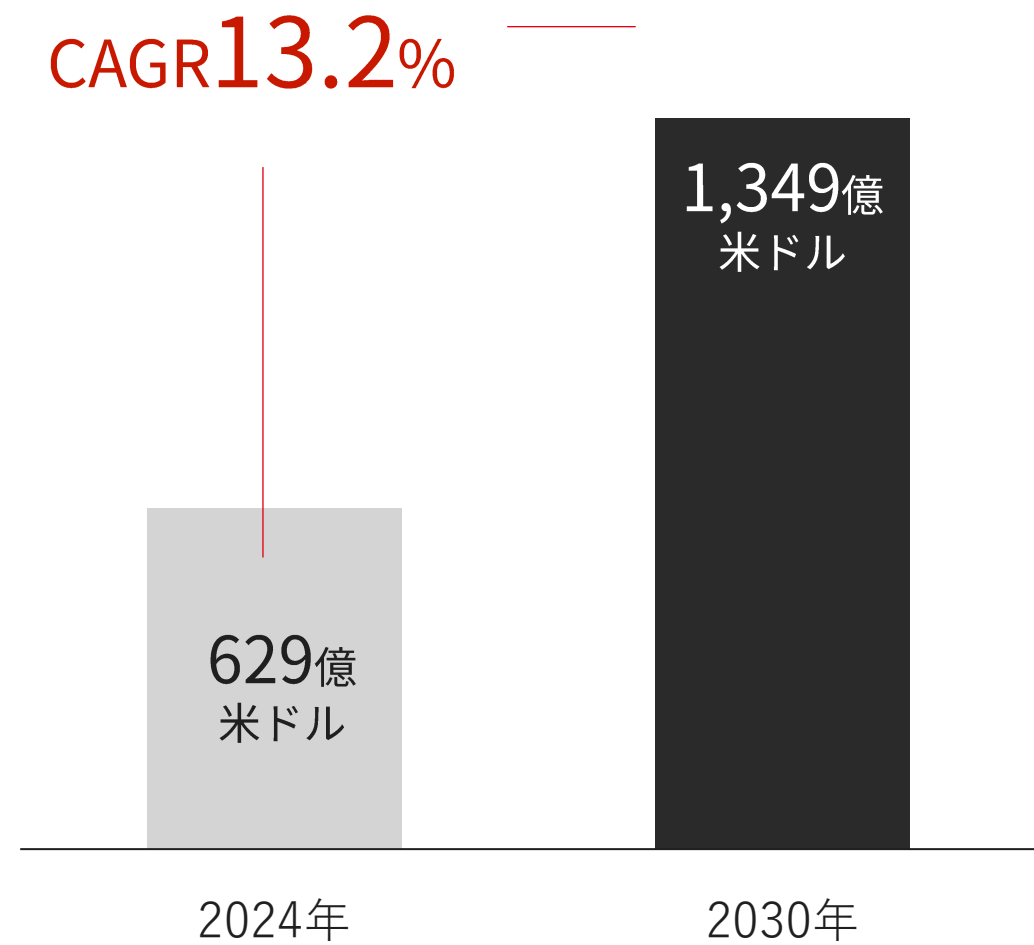
日本の企業は守備体制の構築が不十分

リスクを減らし、企業成長の **最大効率化** を支援します

G	ガバナンス 体制の構築
R	リスク マネジメントの強化
C	コンプライアンス 意識の向上
S	セキュリティ 対策の支援

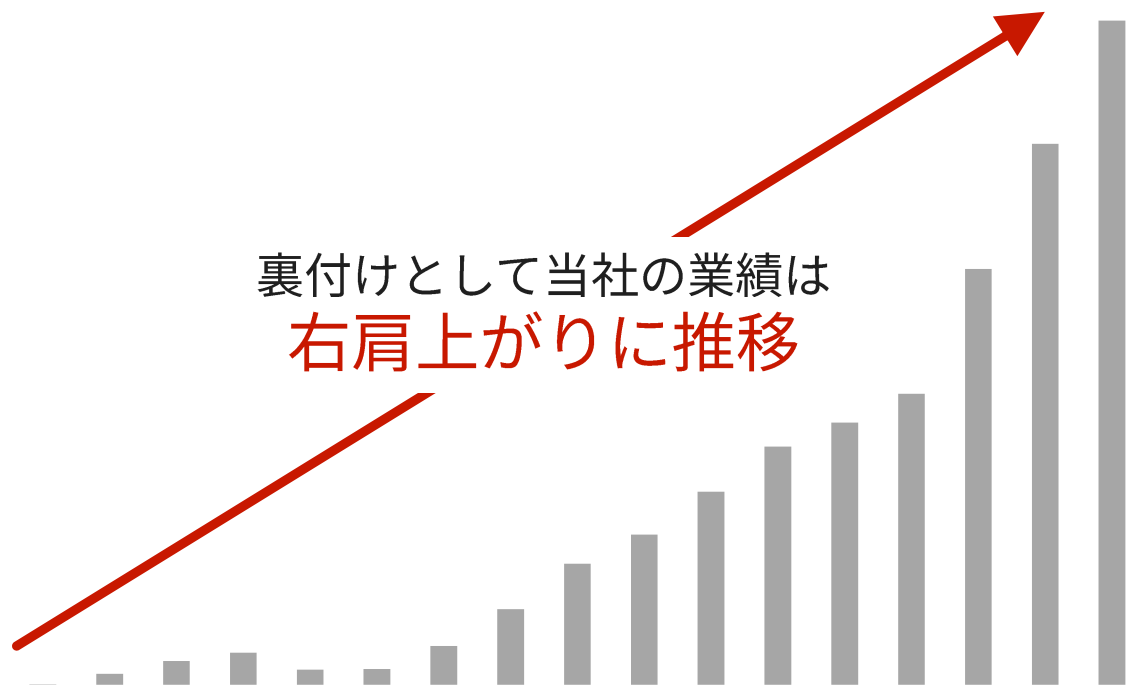
- ✓ 国内のGRC市場についてまだ数字はないが、GRCとセキュリティの対応は企業経営における喫緊の課題
- ✓ 世界のGRC市場は年平均13.2%の成長と予想されており、日本においても同様の成長が見込まれる

 世界のGRC市場 *



 国内GRC・セキュリティ市場の成長

GRC+セキュリティが企業経営において標準化されている欧米に追いつくため、**速度の早い市場成長を見込む**



監督官庁や海外法律の規制等により
高水準のリスク管理を要する



事業において厳しい規制・基準が課される業種
で需要が顕在化



金融



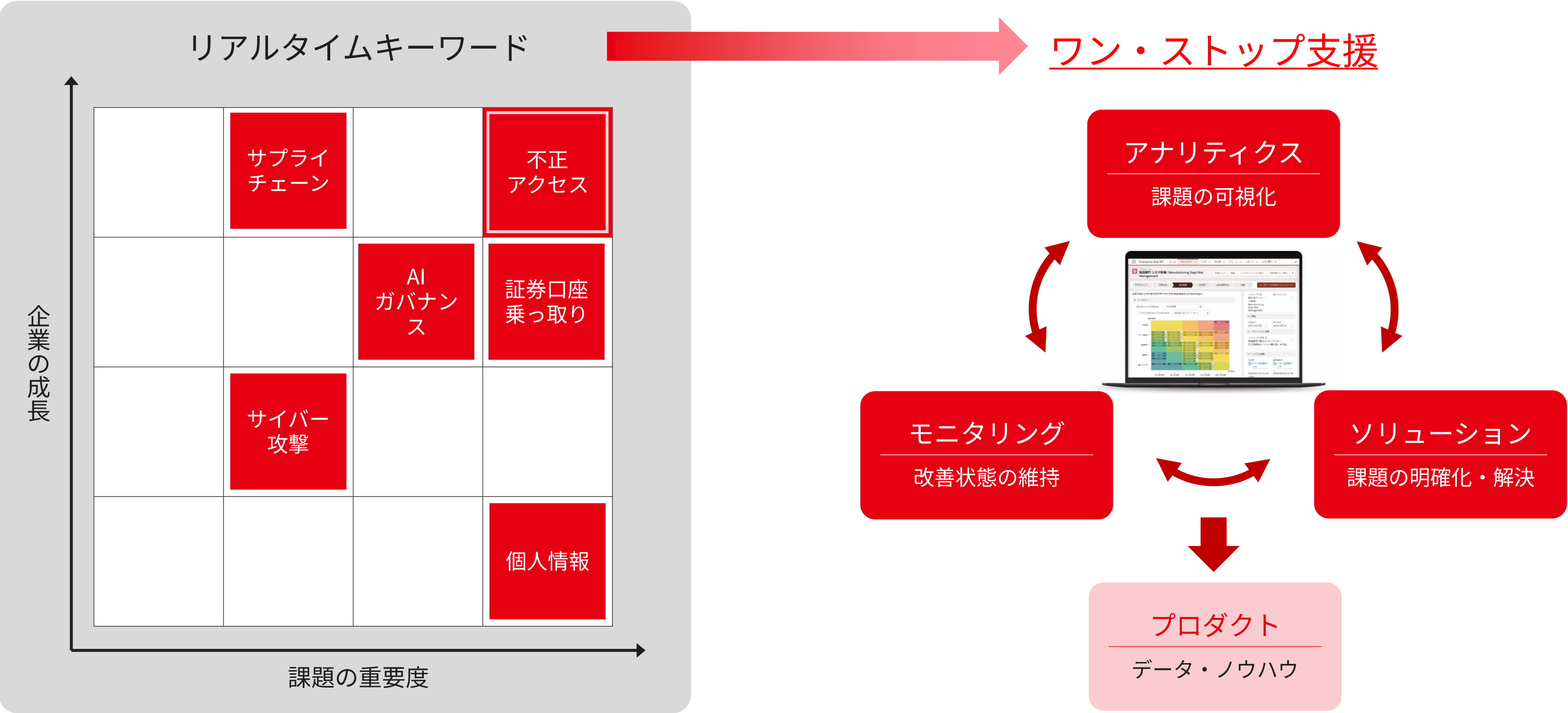
通信

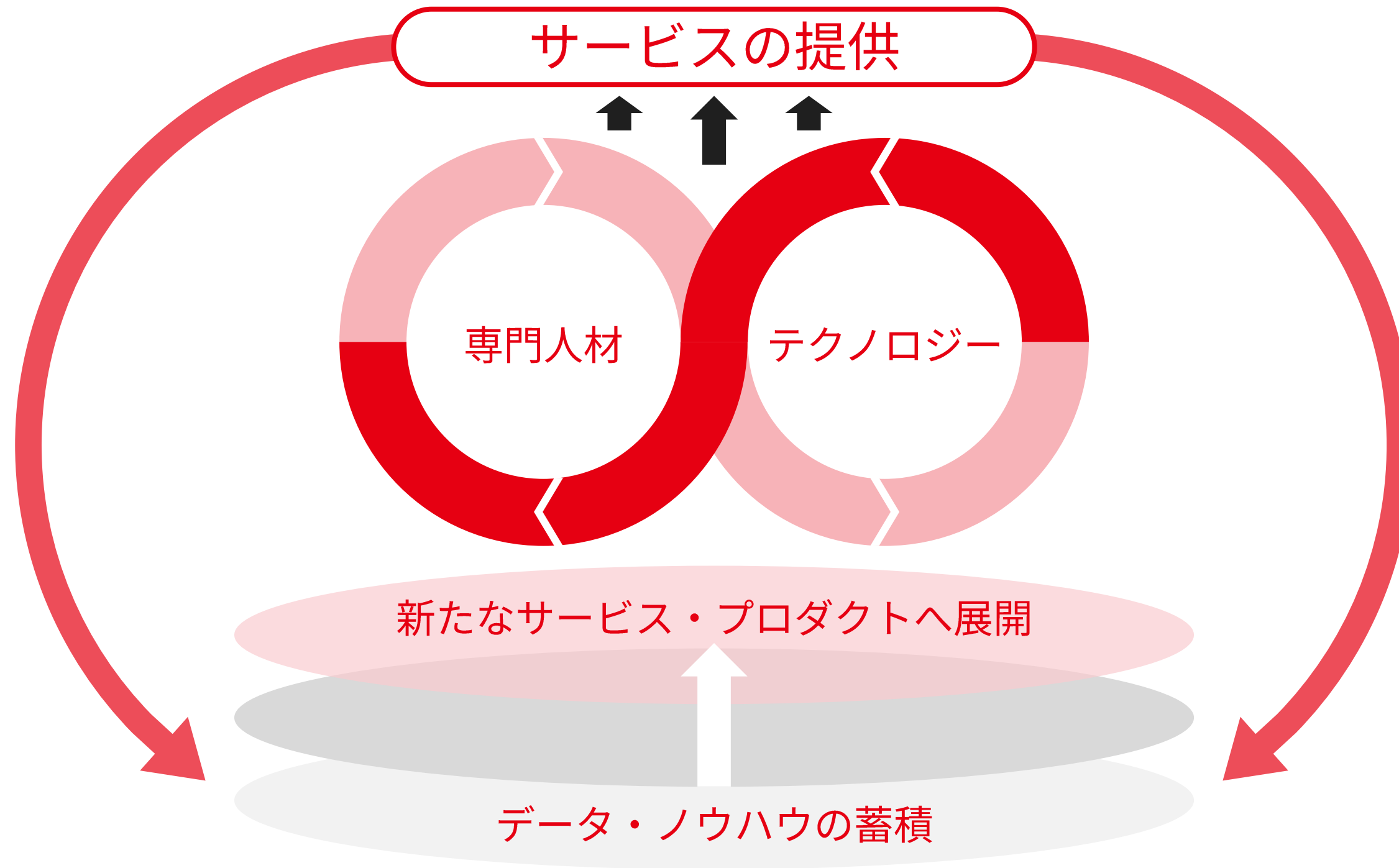


グローバル

※：Grand View Research/Enterprise Governance, Risk & Compliance Market Size, Share & Trends Analysis Report By Component, By Software, By Services, By Organization Size, By Vertical, And Segment Forecasts, 2022 – 2030より当社作成

- ✓ プロダクトの活用により、全社的な情報管理や共有を効率化 ⇒ 企業課題を可視化
- ✓ 分析、解決、維持をワン・ストップで支援 ⇒ 継続的なPDCAサイクルによりプロジェクトを積み増すフロー





- ✓ 200人規模の**専門人材**
- ✓ 国内有数の**GRC**専門企業
- ✓ **15年以上の実績**
- ✓ **ワン・ストップサービス**
- ✓ **グローバル金融テック**

経営の目が行き届く範囲を絞り体制を立て直すために、これまでの3事業を
コア領域のGRCセキュリティ事業と、成長を担うフィナンシャルテクノロジー事業の2事業体制へ原点回帰

GRCセキュリティ事業

GRC及びセキュリティの
視点で企業課題を解決

フィナンシャルテクノロジー事業

資本市場向け
高性能テクノロジーソリューション



www.grcs.co.jp